

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第3回) 審査委員会 議事要旨

日時：平成24年11月7日(水) 11:30～16:00

場所：TEPIA

出席：審査委員会 安藤委員長、鈴木委員、岸井委員、内藤委員、安岡委員、小倉委員、
都倉委員、河野委員

技術調査員 和田専門アドバイザー

文部科学省 山崎参事官(技術支援)

<議事：新国立競技場基本構想国際デザイン競技の作品選定(2次審査)>

○一次審査の議事要旨について . . . (資料1)

- ・一次審査の議事要旨について確認いただき、修正等があれば事務局に連絡することとした。

○一次審査での確認事項の報告について

- ・南側の関連敷地に関する提案について必要に応じ応募者に確認することになっていたが、公園・アクセスとして利用することについて確認ができた。
- ・二次審査対象作品の応募者の資格要件について、全ての応募者が資格要件を満たしていることを再確認した。
- ・指名停止等の行政機関から処分等を受けていないことについて応募者から確認が取れた。

○評価結果について . . . (資料2)

- ・各審査委員の評価結果一覧について説明。

[資料2の概要] - 1位評価を得ている作品：3作品

2、3位評価を得ている作品：6作品

1～3位評価を得ていない作品：2作品

○外国人審査委員の評価について

- ・ノーマン・フォスター委員、リチャード・ロジャース委員の評価について説明。

○各審査委員の評価及び選定方法について

- ・各審査委員の評価結果及び選定理由についてそれぞれ説明。
- ・各委員から1位評価を得ている作品(作品番号2(3票), 17(3票), 34(4票))は3作

品であり、今回、最優秀賞、優秀賞、入選の上位3作品を選定することから、この3作品に絞って審議することを決定。

- ・上位3作品の順位決め方について審議し、3作品を対象として、各日本人審査委員が1位～3位を決めて改めて投票を行い、それに外国人審査員の事前評価結果を考慮することとした。
- ・投票の結果、審査委員が1位と評価した数は、作品番号17が4票、作品番号2及び34が3票となった。
- ・各委員から投票した作品の選定理由についてそれぞれ説明。
- ・上位3作品の投票結果及び議論の結果、最優秀賞は、メッセージ性と日本の技術、チャレンジ精神を世界に発信できるデザインの斬新さが評価され、17番が選定された。優秀賞、入選の選定については、委員会の総意として、優秀賞が2番、入選が34番と決定された。

○最優秀賞、優秀賞、入選選定結果について

最優秀賞 Zaha Hadid Architects (代表者 Zaha Hadid)

優秀賞 Cox Architecture pty Ltd (代表者 Alastair Ray Richardson)

入選 有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計 (代表者 妹島和世)

○審査委員会講評について

- ・審査委員会の総括として、安藤委員長が執筆することとし、各委員に照会することとした。

○審査講評の執筆について

・・・(資料4)

- ・各委員に本日の審議を含めたデザイン競技の審査講評について原稿の執筆を依頼。

○今後の審査の進め方について

・・・(資料5)

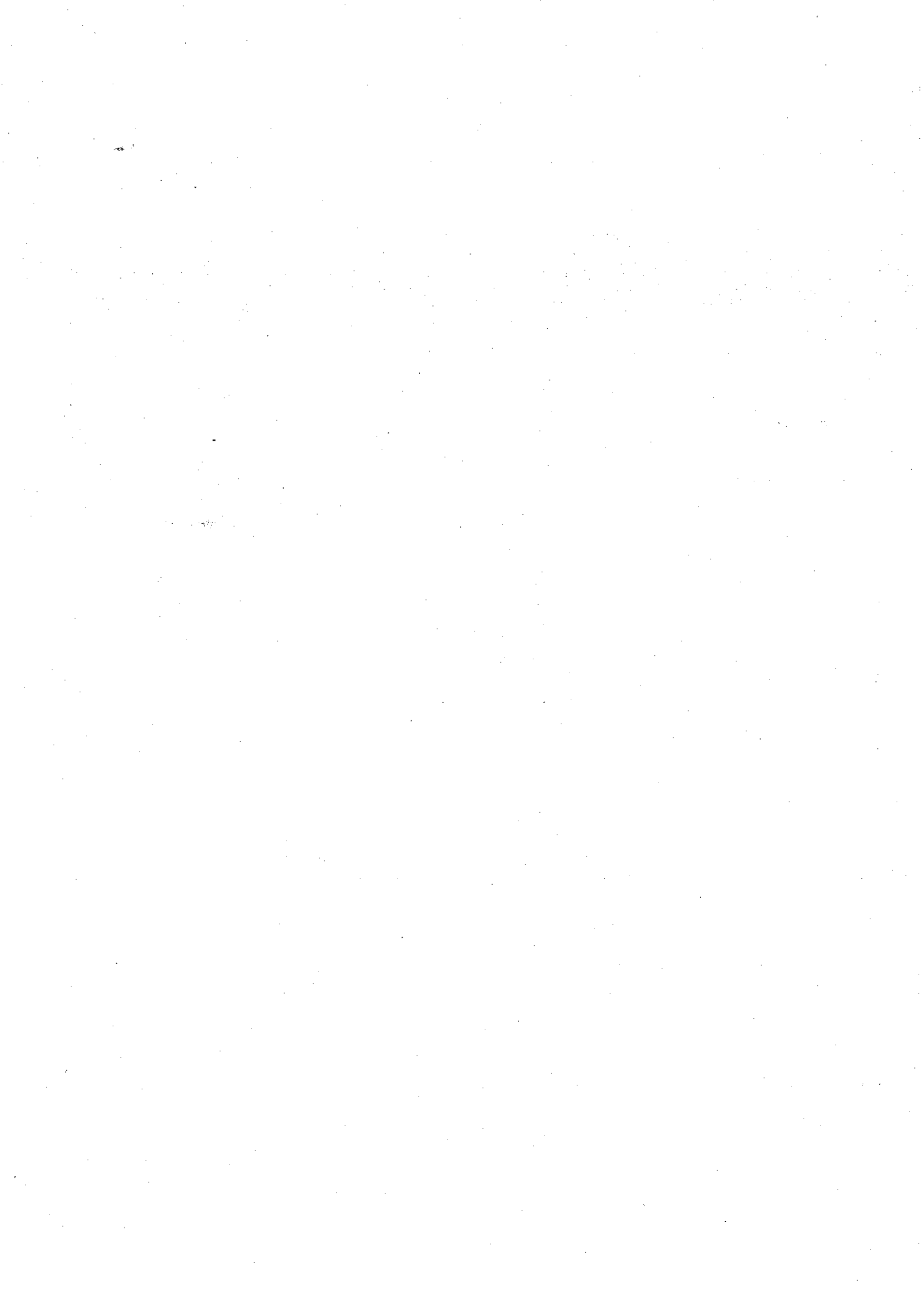
- ・審査結果と審査委員会の講評を11月15日(木)の有識者会議にて報告し、審議頂く予定。
- ・有識者会議終了後に記者会見を開催し、審査結果発表予定。
- ・表彰式については、今月末の予定だが、最優秀賞受賞者等と調整後決定予定。
- ・選定した最優秀賞作品をオリンピック招致立候補ファイルに掲載する予定。
- ・1月末までに基本設計に向けた与条件の整理をし、平成25年度予算成立後、設計等のプロセスに着手予定。
- ・最優秀賞受賞者は、設計・施工段階に監修者として関わっていただくことになる。

○その他

- ・ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの両委員には、安藤委員長から国際電話に

て最優秀賞、優秀賞、入選の選定過程及び結果を報告し、了解を得た。

以上



新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第3回) 審査委員会 議事録

日時：平成24年11月7日(水) 11:30 ~ 16:00

場所：TEPIA 4階 TEPIAホール

出席：安藤忠雄委員長、鈴木博之委員、岸井隆幸委員、内藤廣委員、安岡正夫委員、小倉純二委員、都倉俊一委員、河野一郎委員

技術調査委員 和田章専門アドバイザー

文部科学省 山崎雅男参事官(技術支援)

議題 新国立競技場基本構想国際デザイン競技の作品選定(2次審査)

《以下議事録》

【河野理事長】 新国立競技場基本構想国際デザイン競技第3回の審査委員会を開催します。第1次審査で選定された11作品の中から、本日は最優秀賞、優秀賞、入賞を選定していただくことになります。審査に先立ち、委員をご紹介します。

●河野理事長より出席委員の紹介

安藤忠雄委員長、鈴木博之委員、岸井隆幸委員、内藤廣委員、安岡正夫委員、小倉純二委員、都倉俊一委員、河野一郎委員

●河野理事長より列席者の紹介

- ・技術調査委員 和田章専門アドバイザー
- ・文部科学省 山崎雅男文教施設企画部参事官

本日はこの場にはおられません、外国人審査員のノーマン・フォスター委員とリチャード・ロジャース委員から評価をお預かりしています。

【安藤委員長】 事前に各委員からいただいた点数を表にしてあります。資料2で、写真で11案を表示しています。本日はこの中の点数の高い3作品を協議するのか、もう一回、11作品全てについて協議するのかを、まず決めたいと思います。その後、もし3作品のみの協議でいいとなりますと、その3作品を協議したいと思います。点数はこの表のとおりですが、もう一度、技術的な問題、経済的な問題、スケジュールの問題、一番重要な創造力の問題、街とどのように関わるかという問題についても討議したいと思います。本日、1等とその他ではなく、1等、2等、3等をしっかりと決めたいと考えております。

【河野理事長】 最初に資料の確認をします。

●事務局（福手課長）による資料の確認

【河野理事長】 資料1に1次審査の議事概要をまとめておりますので、ご確認いただき何か意見ありましたらお知らせください。審議前に、前回ご意見のあった確認事項について報告します。南側の関連敷地に関する提案について、必要に応じて応募者に確認を行うとしておりました。応募者に公園及びアクセスとして利用することについて確認ができています。それから、2次審査対象作品の応募者の資格要件を改めて事務局で確認し、全て資格要件を満たしていると再確認しております。指名停止処分等については、行政機関からの処分等を受けていないことを応募者に確認をとっておりますので、報告します。

資料2は集計結果です。事前に各委員に記入いただいた内容が資料3です。外国人委員の参加方法について説明します。リチャード・ロジャース委員とノーマン・フォスター委員には事前に評価をいただいております、両委員にも、それぞれ連絡をすることになっています。委員長、先にロジャース委員とフォスター委員の意見を紹介してよろしいでしょうか。

【安藤委員長】 どうぞ、お願いします。

【河野理事長】 ニューヨーク、ロンドンにそれぞれ説明に行った山崎参事官から説明をお願いします。

【山崎参事官】 1次審査が終わった後、10月19日からフォスター委員、ロジャース委員へ安藤忠雄建築研究所の三浦氏、山崎、JSCの福手の3人で説明に参りました。各作品のA1サイズの2枚紙を壁に張りつけ、審査していただきました。両委員とも非常に熱心で、2、3時間かけて、構造の専門家に確認をしながら審査いただきました。フォスター委員は他の指名コンペに参加している関係上、作品と作者を突合せずに審査し、1位、2位、3位を決め、その後に作者を伝えております。

資料3の [] からが◎委員の評価結果です。1位が []、2位が []、3位が [] です。 [] の作品についての評価は、強烈な、際立ったユニークなデザイン、オリンピックスタジアムにふさわしい。公共用のプロムナードが上の方にあり、よい提案で祝祭の雰囲気をもたらす。グローバルな評価に値するポテンシャルを持っているというコメントです。経験を持った人の作品ではないか、構造的にも納得できるとおっしゃっていました。

2番目の評価が [] です。評価は強い円弧、ジオデシックな構造イメージで、非常に美

しい形である。屋根の開閉も問題ないであろう、エンジニアをわかっているとおっしゃっていました。

3番目の評価が[]です。非常に強いイメージを持って、ランドスケープの提案はこれが一番いいのではないかと、可能性はあるが発展性はないかもしれない、とおっしゃっていました。懸念事項として、ラグビーモード時に観覧席がピッチから少し遠い、屋根の上を人が歩けるようにすることも考える必要があるとおっしゃっていました。

次に、◎委員の審査内容は、資料3の[]からです。第1位が[]、2位が[]、3位が[]です。3時間半ほど熱心に審査いただきました。

[]は、オープンエンドなシステムが新しい時代のデザインに統合されている、都市との一体感もあり、構造的にはロジカルだけれども合理的ではない、実現可能性は大きいとおっしゃっていました。

[]は、コンセプトはシンプルで、おもしろいアイデアであるがオリジナル性はない。ロンドンオリンピックパークのベロドロームという自転車競技場に似て、実現性もかなりあるが、柔軟性に少し欠けるとおっしゃっていました。屋根を歩くことができるが、その影響を考えたほうが良いとも言われました。

[]は、デザイン的にはNot as original、他にも見たことがありオリジナリティーに欠ける、シンプルで建設しやすい建物であるとおっしゃっていました。ただ、周辺環境を含めたアイデアにはなっておらず、小石と言っていたのですが、建物敷地にポンと置いてある感じともおっしゃっていました。

【河野理事長】 資料3に委員のご意見をまとめた資料を用意しております。◎委員から審査結果等を含め意見をお願いいたします。

【◎委員】 私の評価は[]から、1位を作品番号[]にしました。このアイデアが一番完成度は高そうな設計案という印象でした。実現しなければならないという犬前提があるので、多少いろいろな変更が出るということも意識して、変更が出てでもコンセプトがあまり大きく崩れないような提案を選びたいと思いました。ただ、他の方も同じような印象をお持ちだと思いますが、強烈的なデザインメッセージというよりは、むしろ完成度の高い作品のような感じがしました。我が国の国立競技場、ナショナルミュージアムという意味で売りの強化があるといいという印象です。

2位は作品番号[]で、かなりイベントを意識した設計です。3階部分にデッキを張って、その上にシェードのかかったような競技場がある。シェードについては、夜間に大き

なイベントが行われることが多いことを考えると、大変おもしろい仕掛けになり得る可能性がある」と評価しました。環境をかなり意識した提案は評価、共感します。デッキは、他の街区への展開を考えると今後あり得る装置と感じました。絵についてはもう少し大きなコンセプトを変えない中で、クラウン部であるとか、デッキの下であるとか、いろいろと工夫してさらに良くなる可能性があり、2番目にします。

3位は作品番号■■■■です。これは作品番号■■■■が強烈な構造体を打ち出しているのとかかなり対比的で、やわらかい、自然との親和性に近いようなイメージで、我が国の成熟した国家としての国立競技場という意味で共感できる。■■■■は少しBRICs的な感じがありました。ただ、パースはかなり細部を飛ばして描かれているようで、本当にこのとおり軽やかに建設できるかという点で危惧を持っています。特に複雑な形状で、いろいろ考え出すと雨の問題も含めてかなりの部材が出てきてしまう。絵は大変美しくできていますが、このとおりに建設できるかという点で3番目にしました。

【河野理事長】 続いて◎委員、お願いします。

【◎委員】 ■■■■からが私の評価です。第1位には■■■■の■■■■の案を推しました。理由は圧倒的な造形の迫力で、オリンピック施設としての存在感は、断然他を圧しているのではないかと。この建物ができれば、シドニーのオペラハウスが街を変えたように、東京の街を変えるようなインパクトを持っているのではないかと思います。両側に2つアーチがある構造で、1964年の東京オリンピック時の丹下氏の屋内プールの構造を発展させたような感じがあり、丹下氏に対するオマージュとも読めるような気がして、大変興味を持ちました。細部をかなり修正しながら実現するのだと思いますが、迫力には変わりないだろうと思いました。

2番目は■■■■の案です。これは対照的にうねるようなカーブで建物をまとめていて、現代的な表現になっています。■■■■が極めてモニュメンタルだとすれば、違う現代的表現という力を持っている。ただ、細かいところはよくわからないのですが、下の方が全体うねっているので、コンサートのときに裾のほうは上手く閉じているのかどうか分かりにくく、ふわふわと音やいろいろなものが外に漏れ出てはしまいかという危惧の念を持ちました。

3番目は、■■■■の案です。環境に配慮していますが、少々完結し過ぎているところと、外壁を通しての環境的な出入りは本当にそのとおりいくのか、よくわからないところもありました。外周をずっとスクリーンにして投影するというのは、上手くい

けばおもしろい試みという印象を持ちました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いいたします。

【◎委員】 私はナショナルスタジアムとしての品格と、イベントをするフレキシビリティ、人に対して、人を集めるという意味で、最初に■■■■を推しました。競技スポーツの聖地として国立競技場にふさわしい。ややスタティックではありますが、そう思いました。オリジナリティに欠けるという意見もありますが、この三次曲面の球状の曲面は、でき上がるとかなりインパクトがある。上空の飛行機から見ているようなパースしかありませんが、地表面から見ると、この程度の完成度で造られたものは他に類例を見ないと思いますので、スタティックであるけれども私はこれを1位にしました。

2位は■■■■です。首都高速を渡るのは無理だと思います。手続上の問題も相当大変で不可能に近い。ただ、そんなことは枝葉末節で、この案が持っているダイナミズムは捨てがたいものがあります。200メートル程度のスパンになりますが、土木技術で200メートルは別にたいしたことはないので、橋梁技術を使えば十分可能だと思います。代々木のオリンピックプールも本四架橋の長大橋の土木技術が入っています。ただ、コストはかかるかもしれない。長辺方向の構造体のスラストを留めるための下部構造、見えない底の部分にかなりコストがかかるという懸念はあります。

3位は、■■■■の案です。非常に魅力的な案でよく考えられており、いろいろ問題を言えばきりがありませんが、一番気になったのは屋根面の処理です。案をよく見ると、ガラスとセラミックタイルと書いてありますが、三次曲面をそのように上手く処理した例を見たことがないので、本当に解けるのか心配です。コメントにも書きましたが、例えば横浜の大栈橋のくねくねとしたものは、三次曲面の防水層に数万本のボルトが貫通しています。そういうことを考えると、この先、メンテナンスがものすごく大変になることが目に見えています。この案はそこを本当にクリアしているという説明がないと、大きな負担を未来に残すことになります。アイデアは素晴らしいが、本当に解けるのかという疑問があり、3位にしました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 芝と芝の管理の面から大変悩みました。私が選んだ1位は■■■■です。スケルトンな雰囲気シェル型デザインが印象的で、大型スタジアムとしてインパクトがあり、ランドマーク的な建物になるということと、明るい雰囲気が大変気に入りました。スポーツ利活用部会の下に芝の検討会があり、太陽光とか通風の問題とかを配慮していかなけれ

ばいけないという課題が残っています。■■■■の会社は多くのスタジアム実績のある建築家で、風の問題、光の問題を考える場合に、今後もよく交渉してきちんとやっていけることが可能と思い、1位に選びました。

2位は■■■■です。非常にオーソドックスだと思いますが、屋根全体のソーラーとか、環境に配慮したことが売りにできると思いました。屋根は折り畳みの蛇腹方式だと思いましたが、大きな開口部が確保でき、芝に太陽光が届く配慮ができていたと思いました。エコスタジアムという提案がされていますので、これを2位にしました。

3位は■■■■です。極めてユニークなデザインで、橋の印象がすごくきれいなデザインだと思います。ゴール裏に可動式の席が計画されていないため、もしここに決まった場合は、ゴール裏に可動式の席ができるよう配慮してもらう必要があると思いました。

どう芝を管理するか、文化利用に素早く転換できるかということも、3作品とも配慮しなければいけないと思いました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 ■■■■です。第1位は■■■■を選びました。外見上、■■■■との対比で悩みました。音響を専門とする立場として、内部空間が外へ開いているということは丸くなっている空間構成よりは音響処理上は楽というか、気積もある程度抑えられますし、残響がむやみに長くなることを防いでいる感じがしました。エンジニアリング的な視点のコメントが幾つか見られる■■■■と■■■■を比べて、■■■■を1位にしました。

第2位は■■■■です。これだけ外見的に強烈な印象を与える作品は他にありませんし、最初の段階では断トツだと思っていました。ただ、室内観的にかなり天井面が強烈な印象で、競技者の立場で見たときにどうだろうかと感じました。実施設計で詰めていくことにはなりますが、図面上はその記述や配慮が見られません。

第3位は■■■■です。この作品は、形態的には特に変わったところはありませんが、芝生の問題に対して1つの提案をしており、3位としました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 まずはスタジアムの機能性について、音響その他の設備、可動式の椅子、ピッチをどうするかということです。今日の■■■■新聞の記事に、■■■■がピッチを保護しなければいけないから、年間数日しか利用できないとありました。ピッチのクオリティーを残したままイベントができることを前提として審査しました。■■■■芝の保護を考慮しなければ年間8万人規模のイベントが最低でも50から60できるので

はないかという意見もあります。主催者がピッチを保護しなくて済むことは、イベントのコスト的にも重要です。

ほとんどのデザインは、例えば椅子の可動方法とか、ピッチの収納方法とか、いいところがたくさんある。デザインが決まった後で、そのような技術面をさらに検討できるのであれば、神宮の森にランドマーク的に建つ、日本、東京が世界に誇る建造物としてのデザインを第一に決めたい。そうすると、[]が圧倒的である。

2位は[]です。この[]も青山通りや信濃町の駅からはっきり見えますから、神宮の森の圧倒的なランドマークになると感じました。

3位は、[]と[]で迷いました。両方とも素晴らしいのですが、[]は外壁に空間がある。音を漏らさない、密閉するということがコンサートの音響では重要なので、もし開いているのであれば問題だと思います。[]は設計会社並びに関係技術面で経験がすごく豊富で、3位にしました。

[] 私の評価は[]で、1位は[]です。非常によく調べている印象があり、デザインが周辺環境と調和されている感じがしました。イベントとスポーツの両立を最も工夫しているように思いました。開口部は広く、芝生の養生も意識していると思います。特に、イベント時に床が分割して昇降するので、現実的かどうかはわかりませんが、芝生のことを考えずに次のイベントを開催するには、このようなシステムが必要なのではないかと思いました。

2位は[]です。◎委員の意見と同じですが、私の印象では、これできると周囲に相当威圧感があるという感じもします。

3位は[]です。この作品だけが芝生を外に出すシステムで、実際にできるのかという問題はありますが、芝生の管理上はこれが一番だと思います。イベント、文化利用の際も芝を気にせず開催できるだろうと思いました。

[] 私は、[]か[]かという気持ちで考えました。都市の中に建築が建つときに、街並みとしては[]がスムーズにいくと思いましたが、一方、モニュメンタリティーの面で[]は圧倒的にインパクトがある。一番考えなければならないのは、メインスタジアムですから、例えば選手の気持ちが集中できるかどうか。戦っている選手たちが試合に集中できるかどうかと考えると、やはり中心があったほうがいい。そういう面では、[]のように屋根がひらひらとしていると、集中力がなくなると思います。建築的な問題と競技空間という問題で、イベントにも中心が必要ですから、その中心の問題

を [] が解決できるのかどうかと思いながらも建築家としては新しい感じがするという気持ちがありました。同時に選手の側からは、観客が自分たちに集中していないと意識が拡散してしまうのではないかと。エンターテイメントでも、歌手は観客が自分たちに集中していないと興奮状態になれません。 [] はインパクトがありますが、競技者やエンターテイナーが仕事をする観点からは非常に集中力がある。もう一つは、構造的に200メートル程度のスパンは問題ないのかということで、 [] についても同様です。ただ、 [] の方が開閉の問題は解決すると思います。 [] は屋根うねうねとしており、開閉部分をどう処理するのかという問題があります。

この中にある評価の高い3、4作品を討議して決めたいと思います。何といても一番重要なのは、競技者の精神と観客が集中して観戦できるかどうかです。同時に、これから100年程度は使用しますから、モニュメンタリティーの問題とメンテナンスの問題、ランニングの問題も考えなければならないと思います。細かい点は、当選案にはそれぞれの案のいいところはサジェスチョンして、調整可能だと思います。この後、当選者としてしっかり話をしなければなりませんし、技術、スケジュール、実施設計者との関係、かなり綿密に話をすれば音響の問題も含めて可能だと思います。

【河野理事長】 それでは、この後、さらに絞り込んでいく作業になります。資料2をご覧ください。安藤委員長のもと3作品を選び、順位をつけて有識者会議にレポートをするのがミッションです。今お伺いした意見を踏まえ、上位3作品について議論いただきたいと思います。現在、各審査員から1位の評価を受けているのが、2番、17番、34番の作品ですので、まずこの3作品に絞って議論いただくということでよろしいでしょうか。補足のコメントをつけてレポートすることも可能と思います。表の順番ですと、1位評価は34番が4票、2番と17番が3票です。2位の17番と2番を比較すると、17番が3票、2番が2票、3位は1票、1票です。表では、 []、 []、 [] の順になります。委員長、この3作品について、よろしく願いいたします。

【安藤委員長】 これで結構だと思います。3作品をについて皆さんから意見をいただきます。

【河野理事長】 それぞれの審査結果は表とおりでですので、結果を重く受けとめ、まず [] を第1位としてレポートすることをスタートとして議論してはいかがでしょうか。

【◎委員】 私は [] を選ばなかったのですが、その理由は、これが床を掘っているからです。日本で [] と [] では床を掘って芝面を形成しており、

芝の生育がほとんど上手くいかない状況です。そういう状況で果たして技術的に大丈夫なのかどうかを心配したのと、以前、床を掘ると工期が間に合うかどうかという議論がありました。それで私は外したのですが、その辺はどう解釈すればよいでしょうか。

【安藤委員長】 ■■■■■の芝面はグラウンドレベルから何メートルぐらいですか。

【◎委員】 他の案も地下部分がありますので、それが決定的な話にはならないように思います。

【◎委員】 この図が正しければ21.4メートルとあるので、それほど下がっていないと思います。敷地の周りは22メートル、24メートル程度です。

【◎委員】 実現するに当たって、あと5メートル程度グラウンドレベルを上げるなどの調整は当然あると思います。極端に地下を設ける計画でなければ、今日の議論ではあまり触れなくもいいと思います。

【安藤委員長】 私も、他の案も大体低いですから、ある程度のことは設計者と調整できると思います。

【河野理事長】 前回の議論で、非常に深く掘る作品は既に外れています。

【安藤委員長】 一番の問題は屋根がうねうねとしているので、開閉の技術的な解決ができるのかどうか。屋根を閉鎖するために引っ張ることが、技術的に難しいと思います。真っ直ぐなら納まるのですが。

【◎委員】 メンテナンスについてもそうです。

【◎委員】 屋根の隙間は開いているのでしょうか。

【安藤委員長】 開いています。

【◎委員】 客席と屋根の間が開いていることが不安です。

【◎委員】 3つを残して3つを議論するのか、それとも1位を決めて、その1位について議論するのか。

【河野理事長】 2番、17番、34番を残すことは議論いただきました。順番を付けてレポートバックしなければいけない。順番を付けずに3作品だけをレポートする選択肢もあるかと思いますが、要項上、我々が受けているミッションは順番を付けてレポートすることですので、ここで順番を付けてレポートしたいと思います。

【◎委員】 コンペは、点数で決めると皆が2位だと思った作品が1位になることもあり、集計だけで決定するのはよくないと思います。他の作品に点数を入れた委員が、次はどの作品に入れるかという観点もあります。委員長の下で議論して、その後もう一度、評

価点を入れるのがいいと思います。

【河野理事長】 それでは、3つの中で議論していただくということで、よろしくお願いいたします。

【◎委員】 もう一度、評価点を入れるのはいいアイデアだと思います。各委員の意見を聞いて勉強になり、いろいろな知識も得ました。もう一回、議論して、もう一回投票するのはいいと思います。

【河野理事長】 それでも構いません。

【安藤委員長】 投票でも結構ですし、ここで議論して決めることもできます。

【河野理事長】 ■■■■については、◎委員から、床を掘ると芝生の養生に課題があるのではないかという点を議論いただきました。これについては、それほど深く掘っていないので、今後の設計過程でクリアにできるということでした。安藤委員長からは、デザインについて、具体化する上でクリアすべき点があるという指摘がありました。◎委員からは空間が開いているため、音響についての指摘がありました。

【◎委員】 騒音も問題です。今の国立競技場は、騒音のためコンサートが年2回に限られているという問題があります。

【◎委員】 図面上はあまり書いてありません。

【安藤委員長】 今の状態では、音は外に漏れます。

【河野理事長】 今後の工夫で解決できるでしょうか。

【◎委員】 遮音について、オープンになっていると、確かに外部に音が出ると思いますが、設計変更して、ある程度シースルーであっても音響的に遮断することはできました。

【◎委員】 隙間を全部ガラスで閉じられるのでしょうか。隙間が開いているのが魅力的なので、音も漏れるだろうと危惧しました。

【山崎参事官】 ■■■■の提案書に、隙間の空間は遮音と書いてあります。材質はわかりませんが、ガラスのようなもので遮音すると書いてあります。

【◎委員】 これはイメージを描いていると理解したほうがいいと思います。ただ、仮に隙間をガラスのカーテンウォールで塞いだ場合、これだけの距離だと、構造より風圧力が問題になるはずなので、サッシマリオンといって、風に抵抗するためのメンバーが出てくることを思い浮かべなければいけません。

【安藤委員長】 この位置に強いマリオンが入ると、あの軽い感じがなくなってしまう

ます。

【◎委員】 提案者は可動スクリーンと書いています。

【安藤委員長】 大きいので、可動はほとんど無理だと思います。

【◎委員】 この曲面で可動というのは難しいと思います。

【安藤委員長】 スクリーンを入れてしまうと、今度はあの軽さがなくなりますから、音は抜けていくと考えると仕方ないと思います。

【◎委員】 [REDACTED]とありますが、

よくわかりません。

【河野理事長】 工夫は書かれているものの、実現性は不明ということでしょうか。

【安藤委員長】 実現は難しいと思います。

【◎委員】 屋根の仕上げについて納得がいかないところがあります。浸透性、保水性のタイルとガラスで覆うと書いてあるだけです。非常に難しい技術だと思います。雨で漏らさず、メンテナンスがあまり必要ないように仕上げをするという部分は気になります。書類をかなり見ましたが、あまりはっきり書いていない。そうすると、適切に処理するには、ものすごくお金がかかるかもしれません。この形がおもしろいという理由で通しているのかということは、専門家として言っておかなければいけないので申し上げます。

【◎委員】 形はすごく優しいとか、他の作品に比べて環境に溶け込むという意見がありました。私はそうでもありません。私は [REDACTED] にしていますが、結構巨大なものがうねっていて、このようなものがあの場所に建ったらかなり不気味になりかねないという危惧の念を持っています。

【◎委員】 メンテナンスは難しいのでしょうか。

【◎委員】 はい。メンテナンスをフリーにするには、初期コストがすごくかかると思います。どちらをとるか、とても難しい部分が出てくると思います。

【河野理事長】 それでは、[REDACTED] はいかがでしょうか。

【◎委員】 この提案では、形の上にさらにエレベーターッドパス、上に歩いていく空間をつくると書いてあり、それがエクセプションになるという提案になっており、重要なコンセプトの1つです。ところが、右側の図ではそのアクセスルートが鉄道の反対側から来ています。これはほとんど不可能だと思います。小学校の前ですので、そういうところからルートを作るのは実現が難しい。しかも、道路を横断すると、エレベーションの問題もあるかもしれません。この部分が消えると、全体のコンセプトが残るかどうか非常に気に

なっており、それが無いことを前提にすると、どういう絵が描けるのかなと思います。200メートル程度のエレベーターパスは非常に無機質で、普段の使い勝手があまり思い浮かびません。すごく印象的で、私も初めはいいと思ったのですが、よく見ると非常に中途半端な印象で、これを外してしまうと、この提案はコンセプトが変わってしまうと思い、落としました。

【◎委員】 もしこの作品が1位になった場合、鉄道にかかる部分は変えざるを得ないのでしょうか。

【◎委員】 そう思います。

【河野理事長】 今の状況ではそうならざるを得ないので、デザインが変わってしまいます。

【◎委員】 延びているところが短くなるだけです。

【安藤委員長】 そうです。

【◎委員】 エントランスが変わると思います。

【河野理事長】 芝生について、あまりイベント利用を想定されていないので、ほとんど今と同じ状況で、イベントをあまり開催できないと思います。

【◎委員】 可動式で2つに割るとか、仕舞うとかできると理解していたのですが、ピッチに関する提案はないのでしょうか。

【◎委員】 ありません。

【河野理事長】 8万人規模、全天候型、臨場感、スポーツと文化利用のイベントを開催可能という条件を踏まえてデザインをお願いしています。この後、ピッチを工夫する余地はあると思いますが、もう一回整理しないと、イベント利用は厳しいと思います。

【◎委員】 ゴール側に可動席がないことが問題だと思います。

【安藤委員長】 ただ、多くの案のほとんどの問題は、全部修正しなければいけません。

【河野理事長】 どの作品もそうです。

【安藤委員長】 全ての作品はそれほど細かく詰めていませんから、強いコンセプトがあれば修正可能だと思います。

【◎委員】 下部構造と上部構造は分けて考えています。上部構造はナショナルスタジアムとしてのシンボルをどうつくるかということが重要で、下部構造のコンクリート部分は変えられると考えています。もし、一体不可分で変えられない案があれば指摘すべきですが、今残っている3案は要望に対応できると思います。

思いました。木が植えられているレベルが割と上手く溶けているので、よくわかっている人が描いたのだらうと思います。

【◎委員】 確かに、[REDACTED]はこの会社が多く作っています。[REDACTED]もそうです。

【河野理事長】 日本だけではなく、他国にもある感じがして、他の事例をそのまま持ってきてここに置いたのではないかと言われたいかと思えます。

【◎委員】 きれいだと思えます。

【安藤委員長】 よくできています。しかし、国を挙げて2019年に完成を楽しみにするスタジアムでなければなりません。この案は非常に現実的でよくできていますが、そのことも我々は考えなければならないと思えます。

【◎委員】 よくできているけれども、愛きようがないと思えます。このようなスタジアムを楽しみにするでしょうか。

【◎委員】 建物のあり方は、年代にもよりますが、そこに引き込まれるアトラクション、アトラクティブなところが必要だと思えます。私が[REDACTED]を推したのは、キカイダーマンのように合体しそうな、建物自体に商品価値がある感じがするからです。このスタジアムのイベントに行くことが、すごく今風だとか、行くことがファッションのような感じになるといいと思えます。世界に類のないデザインとなると、スポーツイベントでも、文化芸術イベントでも、建物としての価値は大切だと思えました。

【◎委員】 ◎委員の意見もちろん正しいのですが、目新しさというのはすぐに古くなってしまふこともあります。例えば今、[REDACTED]の会場を目新しいものとして見ているかどうかという視点もあります。長期に渡って価値を保持し続けるような案を選ぶべきだと思えます。代々木のオリンピックプールはとてもすばらしい建物で、今でも我々はそのところに行くのが高揚するし、素晴らしいと思うのですが、目新しいだけではなかなかそうはなりません。ナショナルスタジアムなので、ロングスパンで考えて、今も新しいけれども20年後も新しいというような作品を選びたいと思えます。

【◎委員】 私も全く同じ意見です。[REDACTED]はよくできていますが、東京に置かれる意味があるだろうかという感じがします。私が[REDACTED]を推すのは、いつか古いデザインになるかもしれないが、この時代の精神が込められている案だという感じがするからです。

【◎委員】 まだ勢いでデザインをしている感じがしますので、この後、どの程度ヒューマンスケールにブレイクダウンしてもらえるだろうかという感じがします。

【◎委員】 ただ、代々木体育館も、ディテールがないなどと、ものすごく叩かれたという話を聞きました。

【◎委員】 でも、しっかり考えてあります。

【◎委員】 古くなるかならないかというのは、20年たってみないと本当にわかりません。以前、どなたか、首都高速と鉄道を跨ぐデザインは無理だろうとおっしゃっていました。

【◎委員】 それを前提にすると、手続上の問題で現在想定する工期では無理だと思います。10年程度のタイムラグがあれば成り立つと思いますが、今これを前提にすると、途中で事業が座礁してしまう可能性は高いと思います。

【◎委員】 現地をご覧になっていないのでしょうか。

【◎委員】 私は、調整をすれば、この橋は延びないだろうと思っています。

【◎委員】 ご覧になっていないから、反対側は対応できるとしているかもしれませんが。大きな動線を反対側につくるのは不可能に近いです。

【◎委員】 私も不可能だと思いますが、おそらく曲げるか切るかしなければならないと思います。

【◎委員】 橋を短くしたら、多少は変わりますが、このデザインの良さはあまり変わらないと思います。

【◎委員】 全くそう思います。

【◎委員】 ただ、2階のエレベーターパスという提案は、あまり魅力的と思えません。

【◎委員】 曲げるか切るかしなければいけませんが、それが致命傷になるとは思いません。

【◎委員】 上へ上がる動線は、別に何か用意しなければなりません。

【◎委員】 そのため、曲げるか切るかしなければならないと思います。

【◎委員】 跨いでいる部分は長期計画のような形で対応するとして、それが無くても成り立つような状態をどう作るかが問題かと思います。将来的には、ダブルアクセスと対応があるかもしれません。

【◎委員】 ただ、反対側は小学校です。応募者はよくご存じないから仕方がないと思いますが、我々が将来この跨いだ状態にするのだと言うのはどうかという気がします。

【河野理事長】 周囲との調和について、隣に絵画館がありますので、周辺についても

考える必要があると思います。

【◎委員】 絵画館の前からスタジアムがどう見えるのかと歩いてみましたが、どの案を採用しても景観上は邪魔です。ただ、むしろ■■■■作品程度のダイナミズムが合うという考えもあると思いました。私が推した■■■■のように、透明な1つの塊がある状態も良い見え方だと思います。

【◎委員】 このような線路を越える案は当面は実現できないので、デザインを変えてくださいと応募者に言うことは可能でしょうか。

【◎委員】 安藤委員長から言えば大丈夫でしょう。

【安藤委員長】 可能だと思います。

【◎委員】 競技面で、今は開口部に何も無いように見えますが、実はかなりのガイドネットがあります。それは問題ないのでしょうか。

【◎委員】 横は相当明かりが取れると思います。両脇の大きな開口が開閉式であれば、明かりや風はかなり入ると思います。

【河野理事長】 おそらく、サッカーよりラグビーの方が、太陽と重なるとボールが見えにくく、プレーに影響があるかもしれません。確認したところ、結構太いものでした。

【◎委員】 椅子の角度、高さの角度は相当高くしていますから、臨場感はすごくあると思います。

【◎委員】 難を言えば、開閉屋根の蛇腹は、雨水が100メートル向こうの雨樋に行くことになります。その辺を技術的に十分カバーアップしないと、ぼたぼた水滴が落ちるという心配はあります。

【河野理事長】 これについてはデザインを変更せざるを得ないと思います。それから、ゴール裏に可動式の観客席がありません。

【◎委員】 可動式を作る必要があります。

【河野理事長】 少なくともイベントができるように直さなければならないでしょう。

【◎委員】 芝のピッチに関しては、何か方法を考えてもらう必要があります。ピッチの養生を避けていただきたいと思います。養生すると、かなり稼働率が悪くなります。

【河野理事長】 少なくとも◎委員の指摘にあったように、下部構造はゼロ発進でないという難しいということです。それから、上の網目状のものがプレーに差しさわりのあるかという懸念がありました。■■■■は、デザイン性については非常にインパクトがある。しかし、周辺の小学校とか、調和が実際どうなのかという意見もありました。

■については、非常に平均点的にいろいろな要素はクリアしており、現実性もある。しかし、総括的な意見として、オリジナリティーの点で今さら東京に必要あるかという点と、圧迫感があるかもしれないという意見でした。

■については、詳細が詰まっていない、書いていないこともあり、わからないところがある。課題は、メンテナンスにお金がかかることも含めて、音が外へ漏れることについてどのような工夫ができるのか、現実的なのかということです。それから、屋根に使っている材料が現実的なのかどうかという意見がありました。

34番、17番はコメント付き。2番についても、現実性はあるものの、オリジナリティーについてコメント付きということになりました。3作品に限って議論いただきましたが、他の作品についても意見があれば、お伺いしたいと思います。

【◎委員】 他の作品については、もう十分だと思います。

【河野理事長】 これから、順位をつけてレポートすることが一番望ましい対応ではありますが、委員長のご判断をお願いします。

【安藤委員長】 無記名で投票する方法もあるし、記名して投票する方法もあります。

【河野理事長】 それでは、この3作品についてももう一回投票して、順位を付けて、最終的に有識者会議で決めていただくという対応はいかがでしょうか。

【◎委員】 有識者会議で決めてもらうのは賛成できません。

【安藤委員長】 ここで順位も決めて、有識者会議に説明をさせていただくことにしましょう。

【河野理事長】 それでは、2番、17番、34番について、各委員に1位、2位、3位を付けていただき、集計する方法を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【安藤委員長】 もう一回、無記名で投票しましょう。

【河野理事長】 外国の委員の方はどのような扱いにしましょうか。

【安藤委員長】 外国の委員の事前に評価いただいたとおりようにしましょう。各委員に紙を配付してください。

【河野理事長】 準備をしますので、少しお待ちください。

(投 票)

【河野理事長】 集計の結果、突出して1位という作品は出ませんでした。2番と34

番が3点で同点、17番が4点で1位です。

【安藤委員長】 1位と2位を決めたほうがいいと思います。私は、2番は非常に安全だと思えますが、形態として、ただ大きいものがこの場所に来るのがいいことなのかどうか。17番はものすごくシンボリックで、あの競技場おもしろいなと思う。2番の競技場はどこかにありそうな感じもします。17番のZahaは、このような建築を造ることが多い建築家です。だけど、こんな巨大なものは見たことがありません。それだけ強いインパクトがありますから、それを取るかということをお話ししてはどうでしょうか。機能的には、実際には2番が一番よく納まっていると思います。ただ、少し平凡な感じもします。

【河野理事長】 ここで一度休憩をしてはいかがでしょうか。

(休 憩)

【河野理事長】 それでは、かなり接戦ですので、もう一度、最終的に意見を伺いたいと思います。まず◎委員から。

【◎委員】 3つの作品それぞれに特徴があって、どれにするかはなかなか難しいのですが、いずれもこれから設計を具体的に進めるに当たっては、変更並びにさらなる工夫を重ねることが必要になると思います。私が投票したのは、3位の17番の作品についてはエレベーターバスと呼ばれる部分に上がるエントランスを全部修正することが絶対的な条件になると思います。そうすると、下のエントランスから上がってくる部分の変更も必要になります。加えて、先ほど指摘のあった施設面の提案があまり十分ではなく、その補強をすることが必要で、他の案と比べて大変だと思いました。2位は34番で、もっと具体的な提案を詰めなければ本当にできるのかどうか非常に自信がありません。そのような考えで2番を一押しにしました。2番もこの作品のままでは、ややオリジナリティーに欠けるという意見もあり、そのとおりだと思いますので、そこは少し工夫が必要だと思います。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 私は、17番が推奨するに値する、チャレンジするに値すると考えました。大変に大胆な案ですので、技術的に解決、調整しなければいけない部分は幾つかありますが、チャレンジに値する造形、構造を持っていると思います。オリンピックに必要なインパクト、都市にとって大きなインパクトになる施設という観点では、この3案の中では断然17番であると思いました。

2位の34番の案は、モニュメンタリティーを否定しているように見えますが、これが

建つと不可解な感じの施設に見えかねないという危惧の念があります。また、ひだが重なっているので、ひだとひだの間の処理が、音やいろいろな面から本当に実現できるか、不安を感じる場所があります。

3位は2番です。まとまってはいますが、東京の、しかも神宮外苑にこういう形の施設があるのがよいかという点は甚だ疑問を感じました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 外苑の歴史を鑑みて、内苑は伝統様式を守る、外苑はヨーロッパ的な外から来たものを積極的に取り入れるという精神からすると、必ずしも異物というか、我々にとって近未来のようなものがあっても悪いはずはないという視点で、もう一度見ました。2番は完成度が高く、技術的にもギャランティーできるのでないかと思い、2番を1位にしました。

今の日本の現状を考えると、17番のような、チャレンジャブルな建築があってもおかしくないと思い、2位をZahaの案にしました。ただ、この案はこういう構造体をつくりたいという気分を描いているのであって、特にオーバーブリッジで出ている2つのものなどは実現が難しいと思いますが、この計画案の趣旨は流れるような大架構であると捉えれば、十分評価に値すると思いました。

3位のSANAAの案は、このプロジェクトの肝である三次曲面の屋根の処理の仕方が、応募の内容を見てもどうしてもわからないので、推しきれない場所があります。非常によくできた案ですが、そのことが気になって3位にしました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 34番が1位、17番を2位、2番を3位にしました。17番は、確かに架構的にもダイナミックでおもしろいのですが、内部空間の性格と外形が、どうも私のイメージでは必然的に繋がっていかないという感じが強くありました。

1位にした34番も似たような疑問は持ちつつ、競技やイベントに対する求心性がそれなりに確保されていることと、外観もできるとあまり必然性はなく、恣意的に曲面を使っている感じもありますが、存在感はあると思いました。

3位に2番を挙げたのですが、これはよくできているけれどもモニュメント性が薄いと思いました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 私は使い勝手という意味で評価しました。2番はスポーツの面、文化の面

でもフィールド昇降型という提案があるなど、非常に細かい提案をされています。これだけ大きな施設は日本にはありませんし、これもデザイン的にももしろいのではないかなと思ひ、使い勝手の面、臨場感のあるスタジアムという意味では2番が一番いいと思ひます。

34番は、波を打つ屋根というのは非常にコントロールや管理が難しいということでしたので、2位にしました。

17番はデザインとして素晴らしいのですが、今これを発表すると、線路の向こう側との調整が必要ということもあり、これで決めますとなかなか言いにくいのかと思ひしました。

【河野理事長】 ◎委員、お願いします。

【◎委員】 もう17番に尽きると私は思っています。ただ、説明を受ければ受けるほど、2番も専門的には納得できたので揺れていたのですが、やはりデザインの斬新さ、未来志向、世界に対する情報発信、日本の実力を示せる技術的な部分、東京のど真ん中に造るという観点では17番が断トツであるという結論です。ただ、私は利活用グループですから、多々心配なことはありますが、それはまた相談するという前提で17番を推させていただきました。

私は、34番は先ほどと同じ理由です。2番はかなり現実的で、いい案になると思ひます。17番は、これは様々な事情で修正を加えたときにデザインがイメージと違ってしまふのではないかとということと、このまま発表すると周辺との調整など施主の負担が増えるという心配がありました。もう一つ、下部構造について全く提案がないので、さらに作業が必要になるという心配もあり、3位にしました。

【河野理事長】 それでは、安藤委員長にまとめていただきたいと思ひます。

【安藤委員長】 先ほどの点数表では、2番、17番、34番が同じ点数になっている。ここで検討しなければなりません。そのときに、日本が世界に発信する力というイメージを皆さんとお話しして決めたいと思ひます。技術的な問題と機能的な問題等、この施設がどのように使われていくかということも含めてです。どの案にしても、設計者と相当議論しなければならないでしょう。決めた後に相当に話し合わない、設計者というのは大体自己中心的な方が多いから、なかなか要望を聞きません。2番も17番も34番も大きな事務所ですから、事務所が大きいということは話し合える人たちがいるということで、ある程度安心できますが、話し合いを最低限しなければならない。例えば高さの問題等も含めて、景観の問題をしっかりと考えなければなりませんので、どの案にしても相当の修正が

要るだろうと思います。

1位を発表するときに、委員会の意見をしっかり決めておかないといけないのではないかと。曖昧にするのではなく、この案が絶対的なのだというところからスタートしないと、中途半端なことになってしまいます。今まで長い間、委員の皆さんと議論をしてきましたから、このチームできっちりと責任をとるということが必要だと思っています。

この中ですと、圧倒的に2番か17番なのでしょうから、2番か17番かを決めましょう。

【◎委員】 もし議論で決まらないなら、委員長の判断で決定でしょうか。

【◎委員】 コンペの審査で票が割れたときは、委員長の1票は、2票か3票に重みがあると判断すべきかと思いますが、いかがでしょうか。

【安藤委員長】 もう一回、2番と17番についての応援演説をいただきましょうか。

【◎委員】 安藤委員長を2票としていいのではないのでしょうか。

【安藤委員長】 私は、日本の技術力のチャレンジという精神から17番がいいと思います。ただし、Zahaと相当話し合わなければならない。例えば芝生の問題があります。高さは10メートル高い。そういう問題も含めてチェック事項がたくさんありますが、17番がいいと思います。どうでしょうか。

【河野理事長】 いかがでしょうか。

(「賛成」の声あり)

【河野理事長】 それでは、委員長発言のとおり、17番、2番、34番の順位とします。17番については、強いメッセージ性と、日本の技術力を世界に示すことができることが強みというお話でよろしいでしょうか。発表の方法と、どの絵をどのように使うかということは少し工夫が必要かと思います。

【安藤委員長】 一度、ラフの原稿を書いて各委員にファクス、メールで送ってチェックしていただいて、それを修正して発表しましょうか。

【河野理事長】 いろいろ懸念が先に出てきてしまい、本来的に我々が意図しない方向に行ってしまうのは避けたいと思います。

【安藤委員長】 発表の仕方としては強いインパクトを持ってこれを推すんだと言わないと、このプロジェクトに1,300億円もかかることもあり、この委員会が少しでも揺れたことで、ネガティブに受け取られるのは本意ではありません。思い切ってはっきりどんと言ったほうがいいと思いますので、そういう原稿の下書きをして、各委員に見ていただ

きます。

【河野理事長】 15日に有識者会議がありますので、委員長からこの委員会の結論についてレポートしていただいて、有識者会議で最終決定となります。

【◎委員】 建築家に、デザインを変えてもらいますという許可を得ておく必要はありますか。

【安藤委員長】 建築家は、できないものは変えます。許可をもらっておきましょうか。

【河野理事長】 施主としては、首都高速と鉄道をまたぐのは無理だと考えています。

【安藤委員長】 後で電話して、確認をもらいましょう。

【河野理事長】 17番も2番も34番も、それぞれ懸念があります。少なくとも1位となる17番については、指摘部分の変更を条件としてよろしいでしょうか。

【安藤委員長】 よろしい。

【◎委員】 世の中には、変更した状態で発表するのでしょうか。

【安藤委員長】 変更した状態の方がいいと思います。

【河野理事長】 そのほうがいいと思います。

【◎委員】 2番が2位で、34番は3位になるのでしょうか。

【河野理事長】 委員長発言はその順番になっていました。

【◎委員】 そうですか。

【河野理事長】 では、確認します。1位は17番、2位が2番、3位が34番。17番については、先ほど指摘部分の変更に対応することを条件として1位となります。他に何かありますか。

【◎委員】 1位の賞金は3,000万円ですか。

【河野理事長】 2,000万円です。

【河野理事長】 この後、外国の委員には安藤委員長から連絡していただきます。外国の委員がこの結論について了解することを前提に、先ほどの結論が決定されます。審査委員会の総括として、審査結果の公表については安藤委員長を中心に作成していただきたいと思います。資料4をご覧ください。各委員にもデザインコンクールの講評の原稿執筆をお願いします。講評は、表彰式で配付します。資料5をご覧ください。本日の審査結果の公表については、11月15日の有識者会議に報告し、審議いただく予定になっております。また、表彰式を行う予定ですが、日時等は、最優秀受賞者に確認して調整した上で、決めたいと思います。今後、本日選定いただいた案をオリンピック招致の立候補ファイル

に載せることとなりますので、載せ方等については、委員長と相談の上、進めさせていただきま。最優秀賞受賞者には設計施工段階に監修者としても関わっていただくことになっています。審査委員会にも、必要に応じて助言等をお願いしたいと思います。

それでは、最後に安藤委員長に一言ご挨拶をいただきます。

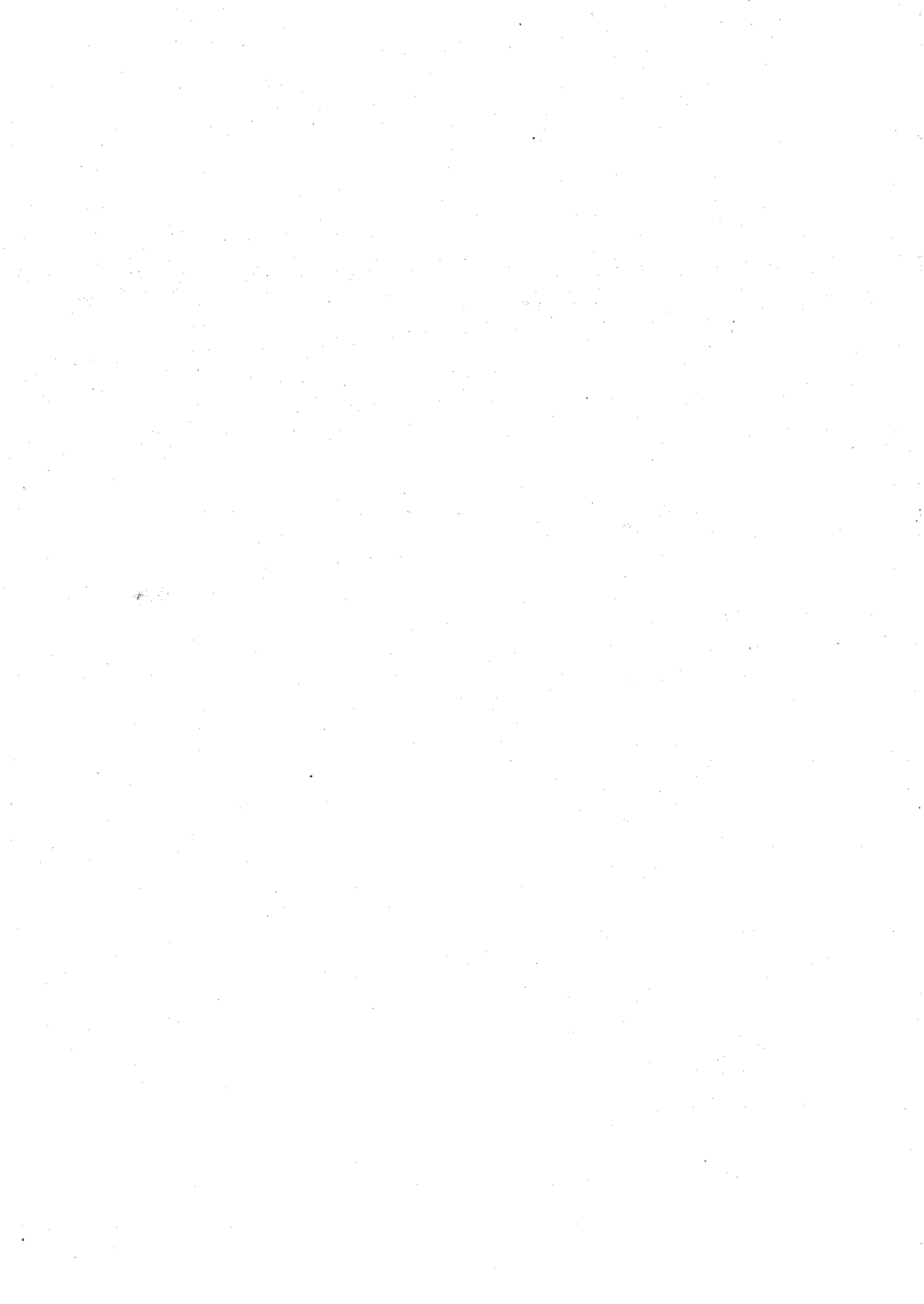
【安藤委員長】 委員の皆様、大変ご苦勞様でした。 実際には、それぞれの考えと結果が合わない部分も多々あると思いますが、日本の今の閉塞的な状況を打ち破るという意味においても、このスタジアムでラグビーワールドカップ、オリンピックが開催できればいいと思います。そして、同時にここで壮大なスケールのエンターテインメントが開催できるといいということも含め、1等案に期待しながら、これから調整していきたいと思。まだまだこの案では問題があると思っています。この方はイギリス在住のイラクの方で、今の世界の建築界では一番個性的な建築家ですから、相当しっかりアプローチをしなければならぬと思います。

敷地についても、東京都の敷地と周辺の敷地との関連も相当考えなければなりません。調整がスムーズにできないと2019年に完成しませんので、東京都、国、そして我々がしっかり取り組んでいかなければなりません。このチームの委員が、設計案ができるまで時々集まり、しっかりと意見を言うチームを作っていただくというのは、河野理事長に考えていただきたいと思。

通常は、コンペの審査が終わった段階で審査員は解散します。審査内容で問題と指摘されたことが生かされない場合が多くありますので、しっかりしたチームを作って、今後も関わっていただくのがいいと思。1等の建築は相当なものですから、この作品が日本の技術力で完成できるとなれば、世界でそれほどの技術力がある国は少ないですから、そのインパクトは相当あるだろう。材料も、工法も、構造技術も、設備技術も、日本の優秀さを表現できるという意味では、私は建築家として非常によいことだと思。世界中の注目の的になればさらによいので、これからしっかり発表していきたいと思。

【河野理事長】 委員長のお話を日本スポーツ振興センターとしてもしっかり受けとめながら先へ進めたいと思。

— 了 —



新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第3回) 審査委員会資料

平成24年11月7日(水)
独立行政法人日本スポーツ振興センター

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第3回) 審査委員会 議事次第

1. 日 時

平成24年11月7日(水) 11:30~16:00

2. 議 事

新国立競技場基本構想国際デザイン競技の作品選定(2次審査)

<資料>

資料1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会 議事要旨(案)

資料2 新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査委員評価結果一覧

資料3 評価結果記入表

資料4 審査講評の執筆について(依頼)

資料5 今後のスケジュールについて

新国立競技場基本構想国際デザイン競技
(第2回) 審査委員会 議事要旨 (案)

日時：平成24年10月16日(火) 13:00~14:30

場所：ヴェルサール秋葉原 地階 ホール

出席：審査委員会 安藤委員長、鈴木委員、岸井委員、内藤委員、安岡委員、小倉委員、
都倉委員、河野委員

技術調査員 和田専門アドバイザー

文部科学省 山崎参事官(技術支援)

〈議事：新国立競技場基本構想国際デザイン競技の二次審査対象作品選定について〉

○各委員の仮推薦作品番号及び作品毎の仮推薦数について確認し、一次審査の進め方及び選定方法を審議し、二次審査対象作品11作品を選定した。・・・(資料1、資料2)

[資料2の概要] - 過半数以上：6作品、
2～4票：15作品、
1票：7作品、
0票：18作品

○選定過程の概要

- ・推薦の無い18作品について、選定しないことを決定。
- ・審査委員の過半数(5票以上)が推薦している6作品(作品番号2、12、17、24、34、37)について、二次審査の対象作品とすることを決定。
- ・複数名の推薦を受けていない7作品については選定の対象とせず、複数の審査委員から推薦を得ている作品を審議の対象とすることを決定。
- ・2票から過半数未満の15作品について、提案の内容、技術調査の結果を改めて確認。
- ・デザイン競技の提案としてユニークな作品があっても良いのではないかとの意見から、作品番号9、■■■■を対象として審議され、作品番号9を選定することを決定。
- ・周辺環境に配慮されたランドスケープ型の提案があるべきではないかとの意見から、作品番号■■■、26、■■■、35を対象として審議され、作品番号26、35を選定することを決定。
- ・「文化」の面から特に音響効果の高い作品を選定してはどうかとの意見から、作品番号32を選定。
- ・技術調査の確認結果で、全ての項目について求める条件・実現性が確認された作品を、選定

してはどうかとの意見から、作品番号33を選定することを決定した。

○二次審査対象作品選定結果

- ・11作品（作品番号2、9、12、17、24、26、32、33、34、35、37）に決定。

○二次審査対象作品の応募者発表

- ・事務局にて保管している著作者証を開封後、応募者情報と照合し、河野委員より「作品番号」「著作者登録番号」「企業名」「代表者名」「企業所在地」を発表。

○一次審査結果の公表

- ・公表予定日（10月18日(木)）及び公表内容（外観及び内観パースのみ）を説明。・・・(資料4)
- ・関連敷地の提案等、提案者に確認が必要な作品の対応は、事務局で行うことが了承され、確認後に公表することを決定。場合によっては、公表が遅れることもあり得る。

○今後の審査の進め方

- ・河野委員より、事前評価及び二次審査から最終公表までの流れを説明。・・・(資料5)

○その他

- ・二次審査対象作品の応募者の資格要件を確認すること、また、指名停止、法令違反等について確認を行うことが必要であるとの意見があり、事務局が対応することを決定。

以上

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計(妹島和世)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	環境に呼応した軽やかな屋根と、ランドスケープとの境界のない観客席が、これまでにない開かれた競技場のイメージを示している。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	波打った外形の観客席が、外部に対して閉じていないため上部席では集中力に欠ける可能性がある点、またピッチから遠い席が生じる点については検討が必要ではないか。
技術的チャレンジ	A	軽やかに浮いた屋根が、風や音といった環境に呼応した形状となっており、環境の時代の新しい建築のあり方を提示している。
実現性	B	可動屋根の機構についての説明が不十分であり、検討を要する。自由な曲線の形状は今後の変更を許容する余地があると考えられる。
その他コメント (評価すべきポイント等)		基本設計において調整しなければならない課題は残っているものの、都市と建築空間の新しいイメージを喚起し、次世代のスタジアムとして可能性を示す提案である。

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	構造と一体になったダイナミックな形態が、スポーツの躍動感と高揚感を表し、都市の強いシンボルとなっている。また流動的なデザインが人の動きを強調し、賑わいが外部にもたらされるだろう。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	可動屋根や可動席についての実現性が高く、観客席は臨場感のあるものとなっている。屋根の材料によっては、構造フレームが落とす影について検討が必要かもしれない。
技術的チャレンジ	A	構造、設備等の技術的側面は問題がないと思われる。空間と構造の考え方が合致し、力強い表現となっている。
実現性	B	技術的側面での問題は無いものの、スケール感や街との連続の仕方など周辺環境との関係性を検討する必要がある。
その他コメント (評価すべきポイント等)		引きが取れない狭い敷地において、国立競技場としての際立ったモニュメンタリティが、周辺環境に強いインパクトを与える建築である。

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

- ・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	周辺の緑地と一体になって都心に新たなオープンスペースをもたらす、場所性をとらえたデザイン。この場所に合致した公園となるだろう。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	可動席に対する提案に欠けている。競技やイベントの最中に屋根の上を歩いたり屋根から競技を眺めることについては検討が必要と思われる。
技術的チャレンジ	B	構造や可動屋根のシステムについて実現性が高いものの、現実的な技術の延長にあるものである。
実現性	A	ボリュームを抑え周辺環境に連続するデザインと、それをサポートする技術を兼ね備えており、実現性は高い。屋根の上を歩ける点については疑問が残る。
その他コメント (評価すべきポイント等)		公園をつくる明快なコンセプトであり、実現性も高い。国立競技場としての形態的シンボルをつくらず、公園が都市のシンボルとなっている。

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

2

応募者名

Cox Architecture pty Ltd(Alastair Ray Richardson)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	強烈なデザインメッセージというより、洗練された感じ
スポーツ・イベントの際の実現性	A	オーソドックスに様々な対応が検討されている
技術的チャレンジ	B	強い売りどころが感じ取りにくい
実現性	A	それほど無理なく実現できそうな感じ

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスが取れた比較的完成度が高い設計案という印象。 ・外装の構造・素材の詳細検討が必要だが、他の案に比べれば実現できそう。 ・一方で、「我が国」の国立競技場としての売りどころがやや弱い感があるので、今後その点の強化が必要。
---------------------------------	---

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	・環境技術・緑で表現していると考えるべきか？ ・クラウン部、デッキ下など、デザインを進化させる必要はあると思われる
スポーツ・イベントの際の実現性	A	屋根処理も含めて現実的な対応がとられている
技術的チャレンジ	B	強調されるべきチャレンジはあえて言えば環境か？ 大きなイベントが開催されるであろう夜間を意識した外部スキンは、新しい技術を受けとめる可能性がある
実現性	A	それほど問題ないように思われる

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<p>・イベントを意識した設計で、今後、映像を交えた面白い工夫ができそうな計画案。 ・国立競技場として我が国が先導的役割を担える「環境」を意識的に打ち出そうとする点も共感できる。 ・周辺デッキは単純だが、逆に次の街区への展開が考えられるかもしれない。 ・ただ、デザイン的には更に工夫して進化させることが望ましいと思われる。</p>
---------------------------------	---

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANA A事務所 + 株式会社 日建設計(妹島和世)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	地表から屋根面まで雲のように柔らかく流れる形は印象的。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	複雑な形状をしており、雨の処理などよく読み取れない部分が多く、今後引き続き細部の検討が必要である。
技術的チャレンジ	A	複雑な形状をしており、開口部や構造などよく読み取れない部分が多く、今後引き続き細部の検討が必要である。
実現性	B	複雑な形状をしており、よく読み取れない部分が多く、今後引き続き細部の検討が必要である。

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品17が強烈的な構造体を力づくで打ち出すのとは対比的。成熟した国家の国立競技場が自然との親和性を示すという点では共感できる。 ・作品33が機能を重視した展開であるのとは対比的。細部が読み取れず、デザインコンセプトのまま実現できるか心配。 ・パースのように軽やか、スマートにはできないと思われる、また、本当にこの絵のままなら施設自身は結構無機質
---------------------------------	---

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	極めて躍動的で斬新なデザイン。新しい都市のシンボルとなる存在感を持っている。オリンピック招致の意気込みを示すものとして、大きな衝撃力をもつと思われる。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	屋根の開閉システムの実現性があり、祝祭性に富んだ空間演出が可能と考える。
技術的チャレンジ	A	原理的には成立する構造と考えられ、この施設に求められるであろうエネルギーは、新しい時代の表現になるであろう。
実現性	A	ここでいう実現性とは、既存の技術に則しているという意味ではない。わが国の建設業界の総力を挙げてチャレンジするに足るインパクトを持ったプロジェクトと考える。
その他コメント (評価すべきポイント等)		きわめて個性的であり、特異な造形であるが、東京の新しいシンボルとなりうるプロジェクトである。今回の応募作の中では、かつての東京オリンピックにおける代々木の屋内競技場に匹敵する唯一の存在感ある作品である。

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計(妹島和世)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	ユニークで周囲になじむ独特の構成を持つ。これまでの設計者の経歴からして、十分に実現可能であり、しかも自然との調和も感じさせる。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	変化に富んだ、思いがけない驚きを秘めた競技場であろう。屋根の開閉システムなどもユニークであり、実現すれば大きなインパクトを与えるに違いない。
技術的チャレンジ	A	高度な技術的挑戦であるが、実現は可能であろう。全体の構成が周囲や自然と親和性に富んでおり、現代の競技場として、世界に訴えかける力を持っていると考える。
実現性	A	設計体制を見るに、十分な技術量を備えているので、実現は可能であろう。こうした構成の施設を実現できる技術力の高さのアピールともなるであろう作品である。
その他コメント (評価すべきポイント等)		日本人による作品中では最もユニークであり、存在感もある。しかしながら決してアグレッシブに存在を主張するものではなく、環境との調和を感じさせるものである。

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	大々的にソーラーパネルを採用したり、自然換気や、パッシブな環境調整手法を取り入れたり、極めて地球環境を意識したデザインである。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	きちんと考えられた構成を持っており、多くの催しに対処できる
技術的チャレンジ	B	ここに見られる技術的要素は、これまでに確立されており、十分に実現可能と思われる。その一方で、未知へのチャレンジという点ではおとなしいと言えるかもしれない。
実現性	A	極めてよく考えられており、実現性は十分にあると思われる。ソーラーパネルの重量、維持などについては、検討していただきたいところである。
その他コメント (評価すべきポイント等)		環境を考慮した現代的問題意識に満ちた提案である。しかしながら競技場外壁の存在感が威圧的にならないか、懸念される。周囲と孤立して存在するかのような印象を与えるので、十分な配慮が求められる。

評価結果記入表【評価 1 位作品】

作品番号

2

応募者名

Cox Architecture pty Ltd(Alastair Ray Richardson)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	競技スポーツの聖地としての国立競技場にふさわしい品格を備えている。ドーム形状として完成度が高い。透明な三次元の曲面は短辺方向と長辺方向で変化しており、有機的な曲面は実現すれば美しい外観になる。また、透明なシェルターの内部に浮かび上がる巨大な木壁は大きなインパクトがある。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	内部空間のボリュームと高さがあるので圧迫感や閉塞感がない。
技術的チャレンジ	A	構造的な問題はない。繊細な構造になる可能性がある。開閉部の荷重の移動に配慮する必要がある。透明なドームを仕上げる材料について、メンテナンスや雨の納まりなど検討する必要がある。
実現性	A	実現性の高い案だと思う。
その他コメント (評価すべきポイント等)		世界中に幾つものドームがあるが、わが国らしい繊細さと競技スポーツの聖地である国立競技場に相応しいダイナミズムを兼ね備えた優れた案として高く評価したい。

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	大胆でダイナミックな形状は、おおきな話題となるだろう。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	上に走る二つのメインビームが競技の際に支障にならないか検討する必要がある。開閉部のガイドとなるワイヤーが気になる。
技術的チャレンジ	B	橋梁技術をもってすれば、提案されている長大スパンは実現可能だろう。開閉部の折り畳み機構については、雨納まりについて検討が必要。
実現性	B	長大スパンを作るためのコストとそれを支持する下部構造にかかるコストに注意を払う必要がある。
その他コメント (評価すべきポイント等)		特異な形態なので、賛否が巻き起こるだろう。神宮外苑の全体の景観としては、異物が挿入された感は否めない。

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANA事務所 + 株式会社 日建設計(妹島和世)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	目をひくデザインではあるが、競技スポーツの聖地としての国立競技場に求められる普遍的な美しさに欠ける。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	イベント時の音響についてよく考えられている。屋根が下凸になっている割に開閉部の開口の大きさが不足している。全体として圧迫感がある。特に、閉じたときの空間に大きな疑問が残る。また、パースでは表現されていない開閉部の屋根の格納が美しく収まらないだろう。
技術的チャレンジ	B	斬新なフォルムだが、曲面形状の屋根の仕上げの処理に大きな疑問が残る。(防水層と仕上げの関係。横浜の大栈橋も多くの問題を克服できなかった) パースのような美しさを維持するためには、長期のメンテナンス費用を覚悟する必要がある。この辺りの確認が得られない以上、この案には賛同できない。
実現性	B	立体トラス形状の屋根それ自体は構造的には問題ないが、この屋根を安定的に支持するにはパースのようにはいかない。客席後部からの支持方法の改善といくつかの柱が出てくる可能性がある。
その他コメント (評価すべきポイント等)		パースはイメージを優先して描かれているが、このようにはならない。工期とコストを考慮すれば、設計者の意図をどこまで実現化し得るか疑問が残る。

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANA A事務所 + 株式会社 日建設計(妹島和世)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	遠望はともかく、近くでの圧迫感が強すぎるのではないか
スポーツ・イベントの際の実現性	A	スポーツ以外のイベントに重点を置いている
技術的チャレンジ	A	エンジニアリング力は高い
実現性	A	
その他コメント (評価すべきポイント等)		躍動感はあるが、形態的な必然性に乏しい

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	大胆な提案、訴求力十分
スポーツ・イベントの際の実現性	B	
技術的チャレンジ	B	技術力 特に音響が見えない
実現性	A	
その他コメント (評価すべきポイント等)		ここまで鳥瞰的視点からのデザインをやってよいのか

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	
スポーツ・イベントの際の実現性	A	
技術的チャレンジ	A	環境技術力は高い
実現性	A	
その他コメント (評価すべきポイント等)	実現には問題あるが芝圍場方式を買う	

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

2

応募者名

Cox Architecture pty Ltd (Alastair Ray Richardson)

- ・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スケルトンな雰囲気シェルのデザインは大変印象的である。大型スタジアムとしてインパクトがあり、ランドマーク的な建物としては存在感がある。 ・全体的に自然光を活かした明るい雰囲気があり、内部スタンドのシルエットが見えるのも特徴的である。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドは昇降型と予想されるが、昇降により可動席が迫り出す方式とするならば、1層目スタンドはピッチの近くに配置され、2層目、3層目スタンドも高さがあり、臨場感のあるプレー観戦が出来ると思われる。 ・スタンドのセクター計画もされている。 ・ホスピタリティエリアも十分に検討されている。
技術的チャレンジ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドの床上下転換については十分な検討が必要である。 ・開閉式屋根は十分に検討する必要がある。
実現性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・海外事例でも、同様の外装材のスタジアムが存在しており、十分実現性があると思う。
その他コメント (評価すべきポイント等)		<ul style="list-style-type: none"> ・地上部の開閉、開口部については特に表現されていないが、スタンド全体を外装材で囲うのであれば、芝生コンディション維持の為に「風、温度、湿度」の対策が必要である。 ・Cox Architecture社は世界のスポーツ施設及びスタジアムのデザイン実績が複数ある。

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外観は競技場を象徴するオーソドックスなデザインである。 ・屋根全体にはソーラーパネルを配置してあることが特徴である。 ・地上部からはスタンド部がスケルトンになり、自然光を取り入れたスタジアム全体の雰囲気を作り出しているのも特徴的である。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド面が昇降し、陸上と球技に転換することができ、イベントのフィールドにも転換が可能である。 ・スタンドは2層目、3層目は高さ、傾斜角度もあり、臨場感を出すことが可能となっている。
技術的チャレンジ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外装材のUMUフィルムは技術的チャレンジが必要であると思われる。 ・1層目のゴール裏スタンドはフィールド格納庫の上にある為なのか、可動席が計画されていない。臨場感ある観客席を実現するには可動席を設置することは必須である。
実現性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・建築的なデザインとそれぞれの機能を実現することは容易なことと予想される。 ・特にフィールド昇降に関する技術提案が具体的に記載あることから、日本の建築技術により実現することが出来ると思われる。
その他コメント (評価すべきポイント等)		<ul style="list-style-type: none"> ・屋根は折りたたみの蛇腹開閉式で、大きな開口部が確保出来るのに加え、芝生の端部までの太陽光が届く為の反射パネルを設置するなど、芝生の育成に適した「風、温度、湿度」対策を考慮したエコスタジアムの提案がされている。 ・ホスピタリティエリアのVIP、コーポレートスイートなどの計画が出来ている。 ・南側に商業機能等が分割配置され、南側に大半の機能が備えられている。 ・吸音ルーバー等の設置があることは、イベント開催時には非常に有効である。

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	・外観は極めてユニークなデザインとなっており、象徴的であるアーチ形の加構の光沢などはブリッジ(橋)の印象があり、きれいなデザインでなっている。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	・全体スライド方式の可動席であり、2層目、3層目のスタンドは傾斜角度があり、臨場感のある設計になっている。 ・屋根は大開口部に加え、その他幾つかの開口部があり、それぞれが開閉可能となっている。また、スタンド下部には大きな開口部があり、「風、温度、湿度」の対策にも配慮されており、芝生の育成には非常に有効である。
技術的チャレンジ	A	・世界の球技場に無いユニークなデザインであり、日本の建築技術を広く知らしめるようなチャレンジができるのではないかと。 ・1層目のゴール裏スタンドは可動席が計画されていないので、臨場感ある観客席を実現するには可動席を設置することは必須である。
実現性	B	・鉄道路線橋等、規定外の場所にまで設計されている部分が調整可能であれば、魅力的なスタジアムである。 ・屋根が特殊材料を使用することから、工期内の建築が可能であるかを検討する必要である。
その他コメント (評価すべきポイント等)		・ホスピタリティエリアの確保が十分に検討されている。 ・商業施設機能等が南側に配置されており、スタジアムの周辺環境に良い影響を与える。 ・自然採光、地中熱利用、ナイトパーズ、雨水再利用、自然喚起、クールチューブ、太陽光発電、蒸発性クーリングシステム(雨水)などの環境に対して十分な提案がされている。

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

17

応募者名

Zaha Hadid Architects (Zaha Hadid)

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	
スポーツ・イベントの際の実現性	A	
技術的チャレンジ	A	
実現性	A	

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物としての未来性、独創性。 ・建設時に細部の検討有 ・いずれも建設時の様々な変更を前提としている。 <p>以下は後から相談させてもらえると期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホスピタリティ、商業施設、文化スペース(ホール等)敷地内の別棟も含む ○音響、照明、可動席等の変更 ○素材、装置設計、機材配置等の変更
---------------------------------	--

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	
スポーツ・イベントの際の実現性	A	
技術的チャレンジ	B	
実現性	A	
その他コメント (評価すべきポイント等)	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物としての美しさ ・いずれも建設時の様々な変更を前提としている。 以下は後から相談させてもらえると期待する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ホスピタリティ、商業施設、文化スペース(ホール等)敷地内の別棟も含む ○音響、照明、可動席等の変更 ○素材、装置設計、機材配置等の変更 	

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	
スポーツ・イベントの際の実現性	A	
技術的チャレンジ	A	
実現性	A	

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<p>・経験が豊富で確実性がある。 ・いずれも建設時の様々な変更を前提としている。 以下は後から相談させてもらえると期待する。 ○ホスピタリティ、商業施設、文化スペース(ホール等)敷地内の別棟も含む ○音響、照明、可動席等の変更 ○素材、装置設計、機材配置等の変更</p>
---------------------------------	---

Evaluation Results Table (First Place Nomination)

Work number 17

Applicant's Name NOT KNOWN

• Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the best (first place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A•B•C•D)	Comments (Voluntary)
New age design	A	Striking and distinctive design - unique - worthy of an Olympic stadium.
Practicality as a venue for sporting and other events	A	Public promenades are a great addition and bring a sense of celebration and occasion.
Level of technical undertaking	B	Permanent cable grid with lightweight opening & closing roof.
Feasibility	B	
Other comments (Noteworthy points, etc.)		Potential for global recognition

Evaluation Results Table (Second Place Nomination)

Work number 2

Applicant's Name NOT KNOWN

• Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the second best (second place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A•B•C•D)	Comments (Voluntary)
New age design	B	Strong geodesic structural image.
Practicality as a venue for sporting and other events	B	
Level of technical undertaking	C	
Feasibility	B	
Other comments (Noteworthy points, etc.)		

Evaluation Results Table (Third Place Nomination)

Work number [redacted]

Applicant's Name [redacted]

Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the third best (third place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A·B·C·D)	Comments (Voluntary)
New age design	B	Strong image
Practicality as a venue for sporting and other events	C	Seats a long way from the pitch in Rugby mode.
Level of technical undertaking	C	Concern about the hill, implications of pedestrian access of entire roof.
Feasibility	B	
Other comments (Noteworthy points, etc.)		

Evaluation Results Table (First Place Nomination)

Work number 34

Author

Registration Number V3724

Applicant's Name Sejima And Nishizawa And Associates + Nikken Sekkei LTD.

• Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the best (first place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A·B·C·D)	Comments (Voluntary)
New age design	A	Open ended system integrated in to the
Practicality as a venue for sporting and other events	A	Flexible
Level of technical undertaking	B	Structure could be logical but not reasonable
Feasibility	B	Very feasible
Other comments (Noteworthy points, etc.)		

Evaluation Results Table (Second Place Nomination)

Work number

Author

Registration
Number

Applicant's Name

• Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the second best (second place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A•B•C•D)	Comments (Voluntary)
New age design	C	Less original
Practicality as a venue for sporting and other events	B	Not very flexible
Level of technical undertaking	A	Very practical
Feasibility	A	Very
Other comments (Noteworthy points, etc.)		



Evaluation Results Table (Third Place Nomination)

Work number 2

Author

Registration Number C3042

Applicant's Name Cox Architecture Pty Ltd

• Of the 10 entries selected in the First Selection, please provide your evaluation of the third best (third place) entry, by grading it on an A-D basis ('A' being the top rating) against each of the following criteria. Please provide any noteworthy points, etc. about the entry, in the comments section.

Selection Criteria	Evaluation (A•B•C•D)	Comments (Voluntary)
New age design	D	Not as original
Practicality as a venue for sporting and other events	C	Not very flexible
Level of technical undertaking	B	Well proven
Feasibility	B	Yes
Other comments (Noteworthy points, etc.)		

評価結果記入表【評価1位作品】

作品番号

34

応募者名

有限会社SANA A事務所 + 株式会社 日建設計

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が1位の作品について、以下の4つの観点について、A~D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	A	なだらかな起伏のある柔らかい外観は、今までにないイメージのスタジアムであり新しさを感じる。また、高さを抑えており、周辺環境と調和された印象がよい。
スポーツ・イベントの際の実現性	A	可動席や収納式のピッチについては、スポーツ・文化利用のバランスがとれた魅力のある提案である。特に、イベント利用時の床が分割して昇降することや大規模搬入動線が提案されており、多様なイベント利用が期待できる。
技術的チャレンジ	A	屋根や壁面の広い開口部や大規模搬入動線が実現されれば、芝生の育成に必要な採光や通風が期待できる提案である。
実現性	A	応募作品の中で最も実現性が高いものと考えられる。

<p>その他コメント (評価すべきポイント等)</p>	<p>次世代型のスタジアムとして期待度が高い。 特に次の提案は、イベントの開催の優れた工夫が見られ、実現すれば画期的なスタジアムとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの規模(10万人、4万人)に応じ、空間を分割できる提案 ・芝生を収納し、イベント用床に変わるシステムの提案 ・大規模搬入動線を確保し、ステージ設営作業を容易にする提案 ・コンサート時の音響に対する提案
---------------------------------	---

評価結果記入表【評価2位作品】

作品番号

2

応募者名

Cox Architecture pty Ltd

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が2位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	B	印象的なデザインである。ただし、圧迫感があり、周辺環境への配慮が必要である。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	臨場感はあるものの、芝生の養生の提案がないため文化的利用には従来どおりの対応が必要である。
技術的チャレンジ	B	文化的利用の際の芝生への配慮が課題である。
実現性	B	問題ないと考えられる
その他コメント (評価すべきポイント等)		次世代型のスタジアムを目指す国立競技場としてのオリジナリティにかける印象である。

評価結果記入表【評価3位作品】

作品番号

応募者名

・1次審査で選定した11作品のうち、評価が3位の作品について、以下の4つの観点について、A～D(Aを最高評価とする)で評価し、評価すべきポイント等がございましたらコメントを記入してください。

審査の観点	評価 (A・B・C・D)	コメント(任意)
未来を示すデザイン	C	デザインは、ユニークであり、面白い。
スポーツ・イベントの際の実現性	B	芝生が外に出ることは、スポーツ・文化利用の両面でメリットがあり、実現性が高い。
技術的チャレンジ	B	芝生を外に出すので、芝の管理が課題となる。 可動席の工夫は面白い。
実現性	B	具体的に検討されており、実現性は高いと考えられる
その他コメント (評価すべきポイント等)		

(票數)

作品 番号	1位 (3票)	2位 (2票)	3位 (1票)	19点
2.	3 (9)	3 (6)	4 (4)	19点
17	4 (12)	2 (4)	3 (3)	19点
34	3 (9)	4 (8)	2 (2)	19点

審査講評の執筆について（依頼）

新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査講評について下記のとおり原稿を執筆いただきますようお願いいたします。執筆いただきました審査講評については、11月下旬に予定している表彰式の際に各審査委員の講評として公表するとともに、今後作成を予定している作品集への掲載を予定しております。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、よろしくお願いいたします。

記

審査講評： A4判用紙1枚程度（様式・文章量自由）
締め切り： 平成24年11月20日（火）

（担当）独立行政法人日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置準備本部 福手・水澤
TEL : 03-5410-9138
FAX : 03-5410-9135
MAIL : newstadium@naash.go.jp

今後のスケジュールについて

二次審査終了後

- ・二次審査の結果を踏まえ、審査委員会の審査結果の講評（審査全体の総括及び上位3作品に関する講評）を作成

有識者会議（11月15日 16時～17時）

- ・二次審査の結果及び審査委員会の審査結果の講評を報告し審議
- ・会議終了後に記者会見を開催し、審査結果を発表

表彰式（11月末～12月前半）

- ・最優秀賞受賞者の表彰
- ・最優秀賞受賞者による作品のプレゼンテーション
- ・その他

※ 最優秀賞受賞者等のスケジュール調整の上、表彰式の日時を確定予定

（今後の予定）

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致立候補ファイルに最優秀作品のパスを反映
- ・1月末までに基本設計に向けた与条件を整理
- ・平成25年度予算成立後、設計等のプロセスに着手

※ 最優秀賞受賞者は、設計・施工段階でのデザイン監修を行う

※ 審査委員会は、デザイン監修について必要な助言を行うことができる